

平成23年度 酪農教育ファーム活動状況 (中間報告)

平成23年10月31日(月)

酪農教育ファーム推進委員会

社団法人 **中央酪農会議**



1. 認証制度の適切な運営と認証審査・研修会、 認証に係る広報活動等の実施

(1) ファシリテーター・牧場の認証募集期間：12月20日(火)まで

認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌(DAIRY MAN、Dairy Japan)、業界紙(全酪新報)やホームページ等を通じて広く酪農家・関係者に告知。

(2) ファシリテーター及び牧場の認証申請に応じて、地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査をおこなう。

審査委員会は1月上旬に開催予定。

(3) ファシリテーターの認証研修会について、3箇所で開催予定(1泊2日)。

東京：1月25日(水)～26日(木)

大阪：2月7日(火)～8日(水)

札幌：2月21日(火)～22日(水)

(4) 酪農教育ファーム認証制度の周知を図るため、全国段階で認証募集を酪農業界誌等で行うのと併せて、地域推進委員会が中心となって、地域単位での説明会の開催を予定。また、農協担当者等を通じて、すでに交流活動をおこなっている酪農家への呼びかけについても、各地で行う。



2. 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための 研究会や情報交換会の開催

- (1) 地域推進委員会が主体となって、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」（共同の研究会・研修会など）の開催が予定されている。
- (2) 全国規模の「出会いの場」として、全国各地で情熱を持って酪農教育ファーム活動を実践しているファシリテーターと教育関係者など約60名が参集し、8月8日（月）に新宿区立東戸山小学校において、酪農教育ファーム全国実践研究会議を開催した。

第1部は、広島大学大学院教育学研究科・鈴木由美子教授より、「酪農教育ファームにおける『いのちの学び』～生命尊重の価値観により、自他相互思考の育み～」と題して、22年度に実施した調査研究結果の概要について実際の体験映像を交えて紹介していただいた。



第2部は、「口蹄疫が酪農教育ファーム活動に与えた影響と今後の対策」というテーマでグループディスカッションを実施した。



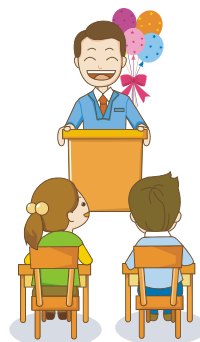
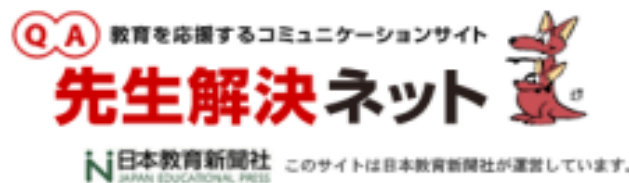
3. 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会的認知の促進

(1) 教育関係者に向けて、酪農教育ファーム活動の教育的効果などについて、教育専門誌を通じた情報提供を実施。日本教育新聞には、酪農体験の様子と、22年度の教育的な効果に関する調査研究の報告を11月頃掲載するとともに、ホームページ「先生解決ネット」にも資料を掲載予定。

(2) 教育関係者に向けて、酪農の教材価値について訴求するため、「酪農」を教材に授業作りを提案するワークショップ形式での研修会開催を検討。(全国2箇所程度、1月頃)

また、酪農教育ファーム活動への参画を促す「きっかけづくり」の場として、酪農家による学校へのモデル出前授業の実施(全国3~5箇所、1~3月)について検討。

(3) 酪農関係者に向けては、業界紙・誌で認証の募集告知を行うことと併せて、昨年度の調査研究結果をもとに、酪農教育ファーム活動の効果について訴求する内容の記事広告を掲載。



4 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

【目的】

牧場あるいはそれと類似するフィールド（学校や地域のコミュニティなどで行う出前教室）の中で酪農体験を行い、参加者（体験者）と支援者（酪農教育ファームファシリテーター）がより良い関係性（積極的な関わり、勇気づける言葉、双方向のコミュニケーションなど）を作り、酪農教育ファーム活動の目的である「食」と「いのち」の学びを、参加者自身が主体的に参加することで感じたり、気づいたりし、相互作用の中から学び合い、創り出すためのコミュニケーションスキルを磨く。

また、交流活動が安心して行えるように、安全・衛生対策についても確認する。

【目標】

自らが行う酪農体験を他の牧場の酪農体験のDVDで見ることで客観的な視点でふりかえり、他の人の意見を参考にしながら自らの酪農体験を確認するとともに、新しく気づいたことを体験プログラムに反映させ、より楽しく、面白く、独自性のあるプログラムを開発していく。

ファシリテーターが相互にコミュニケーションを図ることで、全国や地域のファシリテーターとの結びつきを深め、ファシリテーター同士の関係性を深めていく。



【開催日時】

9月12日（岡山・10名参加）、 9月30日（札幌・20名参加）、
10月21日（名古屋・20名参加）、 11月4日（新潟・28名参加予定）、
11月14日（東京・46名参加予定）、 11月30日（福岡・16名参加予定）、
12月7日（盛岡・21名参加予定）、の7箇所で開催。

時間は10時～16時。

4 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

【プログラム】

(1) オリエンテーション

(2) 講演 / 引き込み、引き出し、学びを創る

どのようにして子どもたちの心をつかみ、引き込み、引き出されてきたのか、自身の経験談をもとに、講師（教育関係者）から話してもらう。

講師

愛知教育大学教授 野田敦敬氏 (9/30・札幌、10/21・名古屋、11/4・新潟)

福岡教育大学教授 津川裕氏 (11/30・福岡、12/7・盛岡)

武庫川女子大学講師 藤本勇二氏 (9/12・岡山、11/14・東京)



(3) 実践 / 子どもたちの酪農体験を映像で見る

(4) ワークショップ

「体験に引き込み、引き出すファシリテーターの支援」と「交流活動における安全・衛生対策」について、体験映像を見て感じたことや気づいたことをふりかえり、参加者相互の気づきを語り合う。

(5) まとめ（総括）

ファシリテーターが見つけた視点について、講師から教育関係者の立場で理論的に裏づけをしてもらうと同時に、質疑応答の時間を設ける。

最後に、研修会で学んだことをどのように現場に持ち帰り、活かしていくのかを参加者に整理してもらう。 6

4 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

ファシリテーターの認証要件として、3年に1回の資質向上のための研修会の受講が義務付けられている。

新たな認証制度が施行された初年度（20年度）にファシリテーターとして認証を受け、20年度以降一度も研修を受講していないファシリテーターについては、今年度（23年度）中に研修を受講しなければならない。

今年度中に研修を受講しなければ、認証が失効してしまうファシリテーター数は、右のとおり。

やむを得ない事情で研修会に参加できないファシリテーターに対する措置を検討。

地域	ファシリテーター数	受講必要者数	受講予定者数	認証が失効してしまうファシリテーター数 (10/31日時点見込み)
北海道	96	45	22	23
東北	75	37	25	12
関東	134	54	39	15
北陸	40	34	27	7
東海	90	37	22	15
近畿	32	6	2	4
中国	31	15	8	7
四国	18	3	2	1
九州	63	23	15	8
沖縄	4	4	0	4
合計	583	258	162	96

5 . 酪農体験プログラムの効果検証

(1) モデルプログラムの作成及び検証

【研究の目的】

2 2 年度に実施した酪農教育ファーム調査研究結果をもとに、新しい学習指導要領や教科書で求められている学力観や指導方法を活かして、牧場での体験活動及び充実した事前・事後学習を行うなどの豊かな実践を展開するモデルプログラムを作成する。また、作成したモデルプログラムの効果を検証することにより、学校における酪農教育のあり方を実践的・実証的に明らかにすることを目的とする。

【研究代表者】早稲田大学教職大学院 田中博之教授

【活動を行う牧場】吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路（埼玉県）

【研究対象】新宿区立東戸山小学校低学年児童 6 7 名（2 クラス）

(2) 酪農体験活動における酪農家の指導法に関する研究

【研究の目的】

2 2 年度に実施した酪農教育ファーム調査研究結果をもとに、体験時の酪農家の「声かけ」とそれによる子どもたちの変化を分析することにより、体験時の効果的な指導法（声かけ）を具体的に明らかにすることを目的とする。

【研究者】

研究代表者 大妻女子大学 石井雅幸准教授

共同研究者 広島大学大学院 木下博義准教授

【研究対象】全国の認証牧場で活動を行う酪農家



(3) 過去に酪農体験活動を行ったことがある子どもたちの追跡調査（効果検証）を行う手法について検討を実施。

一連のプログラム及び検証結果については、事例集等で詳しく紹介する予定。

6 . 全国推進委員会等の開催

平成23年度酪農教育ファーム推進委員名簿

順不同、敬称略

氏名	所属・役職等	区分	備考
1 羽豆 成二	帝京短期大学生生活科学科 前教授	教育関係者	委員長
2 國分 重隆	日本酪農教育ファーム研究会 会長 【新宿区立東戸山小学校 校長】	教育関係者	
3 亀山 桂子	三鷹市立第二小学校 校長	教育関係者	新
4 田山 修三	札幌市観光文化局 文化部文化財課 (北海道教育大学非常勤講師)	教育関係者	
5 角屋 重樹	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 部長	研究者	
6 大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授	研究者	
7 青山 浩子	農業ジャーナリスト	ジャーナリスト	新
8 木島 俊行	株式会社明治 執行役員 調達本部 酪農部長	メーカー	
9 田村 学	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官	行政	
10 藤田 毅	地域交流牧場全国連絡会 会長 【フジタファーム(新潟県) 代表】	酪農家	
11 村上 隆彦	むらかみ牧場(北海道) 代表	酪農家	
12 吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県) 代表	酪農家	
13 近藤 好弘	ホクレン農業協同組合連合会 酪農部 次長	生産者団体	新
14 赤尾 學	東海酪農協同組合連合会 代表理事専務	生産者団体	
15 山口 昌春	九州生乳販売農業協同組合連合会 代表理事常務	生産者団体	

(1) 23年度第1回推進委員会は10月31日に開催。第2回委員会を3月に開催予定。

(2) 全国推進委員会と地域推進委員会、地域推進委員会間の連携を強化するため、酪農教育ファーム全国・地域推進委員会合同会議(全国と9地域の推進委員会委員長及び事務局を参集)を5月20日に開催した。

(3) 地域での活動計画を策定し推進するため、全国9地域で地域推進委員会が開催されている。なお、都府県推進委員会の設置についても、各地で推進中である。

(4) 事務局(指定団体)担当者会議を7月20日に開催。

7. 地域推進委員会の活動の充実

【地域における酪農教育ファーム活動計画(予定)】

地域	活動内容	対象	日時	場所
北海道	・教員対象研修会 ・学生対象研修会 ・新規認証取得説明会	小学校の教員、教育関係者 栄養教諭を目指す大学、短大生 酪農家・関係団体	7月29日 8月18日、19日 12月	むらかみ牧場 むらかみ牧場 ホクレンビル
東北	・酪農体験推進会議 ・酪農体験	教育関係者、酪農家、関係団体 学校等の児童	10月～11月 8月～	青森県、岩手県、山形県、福島県 青森県、宮城県、山形県、福島県
関東	・酪農家のための現地研修会 ・「出会い場」作りのための研究会、情報交換会 ・わくわくモーモースクール " " " " ・先生のための酪農体験学習会 ・教職員対象酪農体験研修会 * 資材の制作「牧場へようこそ」(牧場編・牛乳編)	未認証牧場 ファシリテーター、教育関係者 小学校児童 " " " " 東京都内小学校教諭 静岡県内小・中学校教職員 小学生向け	11月 11月 6月7日、10月6日 9月、10月、11月 10月～3月 7月25日 8月5日	神奈川県 東京都内 東京都内 埼玉県 神奈川県 栃木県那須地域 富士ミルクランド
北陸	・酪農体験現地研修 ・酪農体験学習研修 ・認証牧場・ファシリテーター研修会 * 資材の制作「牧場マップ」	学校栄養教諭 新潟大学教育学部 認証牧場、ファシリテーター 学校関係者等	8月 10月 2月	新潟県(新潟市、長岡市) 新潟県(牧場、乳業) 富山県(予定)
東海	・わくわくモーモースクール ・食べる牛乳セミナー	小学校児童 学校栄養教諭、栄養士、酪農家	6月、9月、他数回 10月以降4回程度	名古屋市、他 愛知県、岐阜県、三重県、長野県
近畿	・研究会議 " " ・出前活動(イベント) * 資材の制作「牧場マップ」	栄養教諭等教育関係者 酪農家 一般消費者 学校関係者等	11月 12月 11月、3月	おおさか府民牧場 六甲山牧場 大阪城公園、大阪万博記念公園
中国	・現地会議 ・酪農体験学習会	教育関係者、ファシリテーター 小・中学校	11月 8月以降	認証牧場 認証牧場
四国	・合同体験研修会 ・認証牧場の防疫対策検討会 ・酪農体験学習会 * 資材の制作「パンフレット」	教育関係者、ファシリテーター等 認証牧場 小・中学校 学校関係者等	11月 11月 6月以降14回程度	認証牧場 認証牧場 認証牧場
九州	・教員対象現地会議 ・酪農体験学習会	教育関係者 小学校児童	8月、2月 7月以降6回程度	未定 大分県、宮崎県、長崎県、福岡県

上記に加えて、以下の事業も推進。

(1) 認証牧場における酪農体験学習のための安全な活動環境を整備するとともに、活動現場の多様な課題などの把握、個別課題への必要な支援を行うため、地域推進委員会を主体に現地調査・指導を実施。

(2) 腸管出血性大腸菌O157保菌検査、安全衛生管理対策に関する研修会等を実施。

8 . 教育関係者とファシリテーター等のネットワーク活動と実践活動の充実

昨年8月に発足した日本酪農教育ファーム研究会の主催で、8月7日～8日の2日間にわたり、夏の研究集会が開催された。

研究会の会員である教育関係者を中心に、酪農家や関係者など、約30名が参加。

【プログラム】

1日目は、福島県・黒沢牧場の代表、黒沢寛寿氏より「福島の酪農負けねえぞ」と題して、福島県における東日本大震災の被害や現状、今後の対応策などについて講演。その講演を題材に、グループ毎に教材化を考え討議を実施。

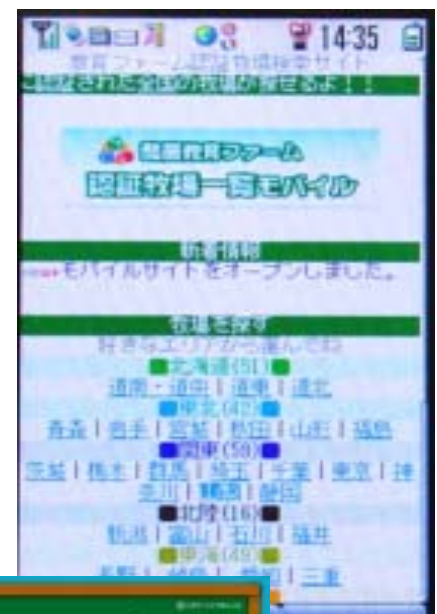


2日目は、山口県岩国市立灘小学校の角井深雪教諭より「牛乳(乳)・牛・酪農家を感じる、酪農体験にするために」と題した実践の報告がされ、参加者により意見交換を行った。



9. ホームページなどの情報環境の整備や「感動通信」等による各種情報の提供

- (1) 酪農教育ファームホームページについて、関係者が必要かつ有用な情報を取得できるよう一層の充実を図り、またモバイルから牧場マップが閲覧できるように、情報環境を整備。
- (2) 教育関係者やファシリテーター等に対して、教育効果や教育的な視点、実際の活動の優れた事例、教育現場の動向などの酪農教育ファーム活動に係る幅広い情報を、「感動通信」（年4回発行）等を通じて提供。
- (3) 様々な切り口から酪農を題材にした新たな取り組み事例について収集し、広く普及するため、事例集を作成予定。



10 . 関係団体との連携の強化

乳牛や酪農家とのふれあいにより、被災した児童などの心の傷を癒し、食といのちの大切さについて実感してもらうことを目的に、畜産経営支援協議会（日本中央競馬会）からの補助を受けて、東北地域を中心に被災地復興支援事業を実施している。

9月9日には、東日本大震災で大きな被害を受けた3つの小学校の児童が通う宮城県石巻市橋浦小学校で、地域交流牧場全国連絡会の全面的な協力のもと、乳牛とのふれあい体験などの「も～も～スクールIN橋浦」を開催した。参加児童は170名。

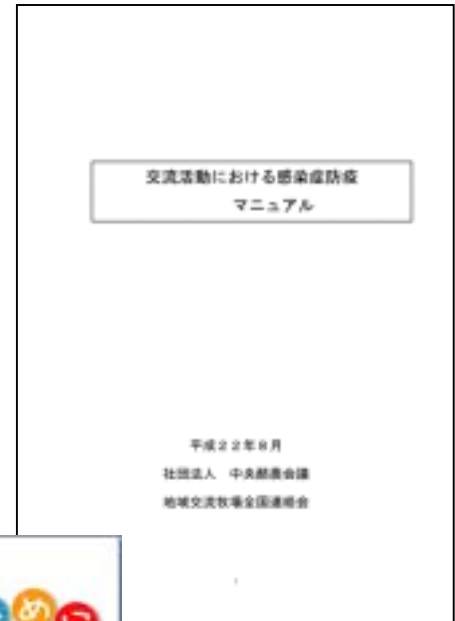


日本酪農乳業協会（Jミルク）主催の栄養士・栄養教諭対象指導者研修会（全国4箇所）に全国学校栄養士協議会とともに協力。

「食といのちの学び支援全国協議会（事務局：中央酪農会議）」は、国の食育推進事業に応募中。

1 1 . 口蹄疫発生に伴う酪農教育ファーム活動の実態の把握と対応

- (1) 認証牧場・ファシリテーターに対する活動実態調査等を通じて、口蹄疫発生に伴う影響について、引き続き情報収集を行う。
- (2) 2 2 年 8 月に策定した「交流活動における感染症防疫マニュアル」等を活用し、改正された家畜伝染病予防法・飼養衛生管理基準に沿って交流活動が安心安全に行えるように、ファシリテーターや関係者に周知徹底を図る。
- (3) 体験者に対して感染症防疫の重要性を啓発するためのリーフレットを作成し、ファシリテーター等に配布することを検討する。



12 . 海外先進地域（フランス）の視察研修の実施

国家事業として教育ファーム活動に先進的に取り組むフランスを訪問し、現地で関係者等から実践的な事例や研究を学び、今後の日本の酪農教育ファーム活動に役立てることを目的として、10月12日（水）～19日（水）にかけてフランスの視察研修を実施。

北フランスのルールとパリ近郊のモデル教育ファームでの体験活動及び小学校での農家による出前授業を視察し、現地の農家・牧場スタッフ等と意見・情報交換を行った。



結果のまとめについては、近日中にホームページ等で公開予定。

平成23年度酪農教育ファーム活動事業計画・スケジュール（10月31日時点）

主な実施事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全国推進委員会等の開催		全国・地域推進委員会合同会議 (5/20)	地域推進委員会				全国推進委員会 (10/31)					全国推進委員会 地域推進委員会
認定申請及び認証研修会 現地審査・審査委員会			☆認定申請告知			●受付開始			→ 受付終了 ■	審査委員会	認証研修会 ①1/25～26 東京 ②2/7～8 大阪 ③2/21～22 札幌	
スキルアップ研修会							スキルアップ研修会 ①9/12岡山、②9/30札幌、③10/21名古屋、 ④11/4新潟、⑤11/14東京、⑥11/30福岡、 ⑦12/7盛岡					
地域での「出会いの場」作り						地域推進委員会主催の「出会いの場」の開催 (全国推進委員会と地域推進委員会の情報交換)						
教育関係者とファシリテーター のネットワーク活動		検討会(ネットワーク 活動強化のための検討)			実践研究会の実施 8/8 (22年度研究成果等発表)		地域単位で活動を実施					
酪農体験プログラムの効果検証		検討会(体験プログラムの 効果検証)			事例収集及び効果検証							検証結果の報告
活動通信の発行			●発行				●発行			●発行		
認定牧場に対する現地調査・指導					現地調査・指導の中間報告							年間報

【その他重点推進事項】

1. 広報活動強化（HP強化、酪農誌・教育誌への啓発記事広告等）
2. 地域での活動強化
 - ※1：平成22年度までに開発・提供した教材や調査研究についても普及活用
 - ※2：地域における研修会・研究会や酪農教育ファーム認証に係る説明会等は随時開催
3. 被災地における（被災者に対する）体験活動の支援
4. 海外研修（フランス、10/12～19）の実施